

## 調査結果の分析（鉄筋工事業）

### ①作業場面の分類

ヒヤリ・ハット事例を作業場面ごとに分類し、発生件数を集計した結果は表1の通りである。

「配筋作業中」に発生したヒヤリ・ハットが56件中24件（42.9%）と、全体の4割超を占めている。以下、「玉掛け・揚重作業中」が17件（30.4%）、「資材運搬中」が11件（19.6%）、「その他」が4件（7.1%）となっている。

表1

分類	件数	割合
配筋作業中	24件	42.9%
玉掛け・揚重作業中	17件	30.4%
資材運搬時	11件	19.6%
その他	4件	7.1%
合計	56件	100%

## ②事故の型

ヒヤリ・ハット事例が、仮にヒヤリ・ハットにとどまらず労働災害となった場合に、その事故の型を項目ごとに分類した。選択した項目（複数選択可）を集計した結果は表2の通りである。

事故の型のうち、「飛来・落下」が報告のあった56事例中19件（33.9%）で最多となっている。続いて「転倒」が18件（32.1%）、「激突」及び「崩壊・倒壊」が8件（14.3%）となっている。

（割合は、報告のあった56事例に占める当該事故の型の件数である。）

表2

事故の型	件数	割合
飛来、落下	19件	33.9%
転倒	18件	32.1%
激突	8件	14.3%
崩壊・倒壊	8件	14.3%
墜落・転落	5件	8.9%
挟まれ、巻き込まれ	3件	5.4%
切れ、こすれ	3件	5.4%
交通事故（道路）	2件	3.6%
感電	1件	1.8%
踏み抜き	1件	1.8%
合計	68件	121%

※複数回答可のため割合の合計は100%にはならない。

### ③原因（ヒヤリ・ハット体験時の心身状態）

ヒヤリ・ハットを体験した際の原因と思われる心身状態について、項目ごとに分類した。選択した項目（複数選択可）を集計した結果は表3の通りである。

原因のうち、「不注意」が報告のあった56事例中49件（87.5%）で最多となっている。続いて「危ないと思っていなかった」が27件（48.2%）、「大丈夫と思い手順を省略した等」が9件（16.1%）となっている。

（割合は、報告のあった56事例に占める当該原因の件数である。）

表3

原因	件数	割合
不注意（見落とした、気づかなかった等）	49件	87.5%
危ないと思っていなかった	27件	48.2%
大丈夫と思い手順を省略した等	9件	16.1%
身体のバランスを崩した	7件	12.5%
身体、気持ちが悪れていた	7件	12.5%
予測違いをした	4件	7.1%
よく見えなかった	4件	7.1%
心配事があった	3件	5.4%
手順、急所を忘れていた	3件	5.4%
イライラしていた	3件	5.4%
見間違い、思い間違い	3件	5.4%
錯覚	2件	3.6%
近道	2件	3.6%
合計	123件	220%

※複数回答可のため割合の合計は100%にはならない。